

シンガポール公演御礼

霜月五日、冬隣の日本から常夏のシンガポール公演に参りました。総勢十六名。歴史的にも現在も、日本とは大変関係深い、同じアジアの国でありますシンガポールは街も美しく活気が溢れて居りました。到着は夜半、翌日は休む暇もなく野外演奏とワークショップ。

お夕食は日本文化協会のご招待で、返礼の歓迎会にご招待。

七日は在シンガポールJCCを訪問。会長始め松永一等書記官に種々お話を伺いました。八日の公演も実に感動的でした。

公演は和太鼓に日本舞踊と津軽太棹を織り込み、二部構成でしたが、それは見事な演出・構成でした。

最後締立ちの「ブラボー」「アンコール」でしたが、時間の関係でお答えできず真に残念、又参りますの通訳に怒涛の様な拍手でした。暖かくそして熱烈にお迎え頂き深謝限り無しです。

スマーズに運べたお舞台ではありません。山あり又山ありでしたが、総て乗り越え又強くなりました。

力強く温かな応援で胸ハ丁をあえぎ乍ら着きましたシンガポール

ですが人々の親切な心づくしとおもてなしに唯々御礼申し上げます。ホテルもホーレも因様です。その上、清潔でした。

シンガポールの歴史を知れば知るほど辛い過去を背負つて独立した今シンガポールに敬意を抱きます。

現在も因様ですが日本とは大変深い繋がりを持って居ります。種々知られました。今後とも親しい友人國であります様に。

常に思うのです。帰国致しまして青山の街に立ちますと「日本に帰つて來た」と。深い安堵を覚える事をです。

小川 夏葉 記

平成二十八年 師走吉日

良いお年を

お迎え下さいます様

天に恵みを地に平和を

祈念致して居ります